

 女性医師の窓

## 一非常勤医として

金沢大学附属病院耳鼻咽喉科 橋本 春実

私は現在耳鼻咽喉科の非常勤医として、週3回外来診療をしています。私のような人間が原稿を寄せるのは少々心苦しいですが。

私は卒業後耳鼻咽喉科の医局に入局しました。入局当初は、出産後の女性医師はしばらくの産休後に現場にフルタイムで復帰、家庭を持つ女性の先生は開業か関連病院に就職している先生が大多数でした。私もいずれ結婚し家庭を持つと、将来そのように働くことになるのだろうかと思然と考えていました。しかし自分にそんな大変なことができるのだろうかとも不安に思っていました。

卒後5年目で産婦人科医の夫と結婚し、その後出産となりました。そのころから特に期限を決めずに育児休暇をとる先生が何人かいて、このような方法はとてもありがたいと思い、育児休暇を1年、その後主人の転勤で耳鼻科の非常勤医の需要も近くにない地に住むこととなり、しばらく仕事を離れていました。

仕事から遠ざかる期間が長くなると、金沢にもどってきて、今度はいつ仕事を再開するか、これがまた悩むところになりました。復帰しても、主人は多忙で、また諸事情で双方の実家に子供をあずけることもできず、フルタイムでの復帰は無理だと判断しました。このまま潔く仕事を辞めたほうが中途半端に働いて迷惑をかけるよりいいのかとも考えていました。でもやはりそれも違う。そんな時ちょうど週2回、午前の外来の仕事の話をいただきました。その病院では指導医の先生もいるので現場を離れていた自分にとって勉強にもなる、耳鼻科の仕事を再開するのに絶好の機会と思い、ありがたくお受けしました。それをきっかけに現在の週数回の外来非常勤医としての生活が始まりました。今では子供たちも小学生、もう育休といえる時期はとっくに過ぎてしまいました。しかし、医師の代わりはいる（しかも私より優秀な先生がたくさんいる）けど、子供の母親は自分ひとり、やはり子供が自立するまでは家庭を大切にしていきたいと思い、この生活を続けていきたいと思っています。と言いつつ、実は料理は生協やスーパーのお惣菜のお世話になっており、大した家事育児もしていないので、あまり偉そうに育児論は語ることはできませんが。

現在、週数回、数カ所の関連病院で外来診療を行っています。いろいろ入れたバッグと車で移動し、その病院を受診する患者さんと接しています。それぞれの病院でいろいろな患者さんがいて、私の診察に通っている。私を頼りに来てくださる患者さんのため、外来診療の間は、誠心誠意で最善の方法を考えたいと思っています。大体の外来診療は特に問題なく進むのですが、時に困難に直面することもあり、経験不足と実力不足を痛感することもあります。やはり日々勉強が必要です。

現在は女性医師も増加し、仕事と家庭の両立が問題となっています。私の場合は大変育児に理解ある医局のおかげで今の生活があります。耳鼻咽喉科も人手が少なく、私のような人間が迷惑をかけているので心苦しいのは事実です。しかし医局が許す限り、私はこの生活を続けて行きたいと思っています。これからは女性医師も増加し、いろいろな考えや生き方が出てくると思います。医師としての使命も大切かと思えます。でも、このような生活もあります。完璧ばかりを考えず、自分のできる範囲のことをする生き方もひとつの方法だと思っています。